

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日

令和5年4月24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490201161		
法人名	(有) サカコーポレーション		
事業所名	グループホームガーデンの家川内		
所在地	〒731-0102 広島市安佐南区川内5丁目1-9 (電話) 082-831-4165		
自己評価作成日	令和5年1月9日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490201161-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年4月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様お一人ひとりに合ったケアを行えるように、認知症の方への理解を深め、よりよい生活を送られるように日々、考え話し合い、取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は例え、住まいが変わろうとも地域住民の一員として当たり前地域での暮らしと住み慣れた生活が出来るよう取り組んでいる。職員は日頃の業務の中で意見や提案が出しやすく、働きやすい職場環境作りで、介護方法や資格取得など職員のスキルアップにより利用者本位のケアに取り組んでいる。地域医療との連携や訪問看護の常駐で健康管理をしている。家族、医師、看護師、職員など多職種と連携を図りながら、利用者、家族に寄り添う看取り支援を行っている。コロナ禍で外出が困難であるが、事業所フロア内で月1回の季節感のある行事の開催や温かい食事を提供している。

自己評価	外部評価	項 目（せせらぎ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日、朝礼や研修時に唱和し、理念を意識して実践している。	法人理念を掲示し朝礼時に唱和している。「いつもと違う」事に気付き、多方面の考察を行いながら必要時、医療に繋いで重症化を防ぎ、現在の生活が継続できるように支援する事を意識している。毎年、チーム目標と個人目標を掲げて、半年毎に管理者と共に振り返りをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍により行事は縮小している。	コロナ禍で外出自粛の為、秋祭りや花火大会など従来の交流は難しかったが、回覧板にて地域情報を得る等、地域住民としてのつきあいを継続している。今回は、小規模で恒例の秋祭りを事業所で行った時、和太鼓の音を聞いて近隣住民が「ワクワクする」と集った例がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍で地域との交流は難しい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	災害時の対策や、コロナ感染状況など情報を共有している。 また、地域の子ども食堂などの状況なども教えてもらっている。	面会制限のため、従来通りの開催は困難ではあるが、書面を通して事業所のサービス提供状況、日常の様子など報告を行い、情報共有をしている。アンケート用紙にて意見や要望を得て、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域の認知症の方などの相談やオレンジチームや地域包括支援センターとも連携をとっている。地域のサロン活動で認知症ケアについて話をする場を与えていただいている。	地域包括支援センター職員や医師会のオレンジチームの活動など連携を密に図りながら事業所の活動状況や不明瞭な点の問い合わせや相談などに対応し、信頼関係の構築に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目（せせらぎ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修は何度も行い、理解を深めている。	身体拘束適正化委員会の研修で、自己チェックシートを活用して予防や対策について具体例をあげ、グループワークで話し合い、身体拘束をしないケアを理解した上で、利用者本位のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修を何度も行い、虐待防止に努めている。ワークショップ開催して、不適切ケアと思うことへの打ち手など話し合い取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	倫理綱領で、理解を深めている。必要な方へは、成年後見制度を活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約までに事前に面談や説明を行い、家族や本人の不安や疑問を取り除けるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の意見、要望については、職員を中心に聞いて、運営推進会議で発表させてもらっている。	家族との電話や物品持参時に意見や要望を聞き、担当職員から毎月、利用者毎に写真の送付を行っている。利用者から「認知症予防のために折り紙をしたい」と要望があり、折り紙で鶴を折り、職員の手作りによるおり鶴タワーに、毎日貯めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目（せせらぎ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダーを中心に職員の意見や提案を聞く機会を面談などで行っている。	ユニットごとにリーダーを中心に介護する上での安全性など、ケアをする中で気楽に記載できるノートで気づきや提案、意見が出しやすい職場環境作りをしている。年1回の管理者との個人面談では職員一人ひとりの日頃の思いや考えなど聞く機会を設け業務改善などに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人の目標を立て達成に向けての取り組みを行えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	エキスパートコーチやトレーナーを中心にOJTシートの評価育成に取り組んでいる。メンター制度も導入している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他の事業所の運営推進会議に参加し、情報の共有を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の希望、意向を常に第一に心がけ信頼関係を築いている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ せせらぎ ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	コロナ禍のため、電話で対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族の希望、意向に添って、必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	できるだけ目線を合わせて、丁寧な言葉で会話し、できない部分を補うよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	小さな変化や必要な時、電話で伝え、コロナ禍のため、ZOOMを遣って面会していただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍での外出は難しいが、ZOOMでの面会や、行きたい場所などを聞いて、できる範囲で行っている。	コロナ禍で外出自粛や面会制限のため困難であるが、状況を見ながら感染対策を行い近隣公園の散策、年賀状や電話の取り次ぎ、訪問美容の利用など、出来る範囲内で関係の継続支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ せせらぎ ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	コロナ禍で、利用者間の間隔を広げないといけませんが、できるだけ孤立しないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	電話をかけて、様子を聞くことをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の思いをくみ取り、できるだけ、その方に合った支援方法を検討している。	生活歴や日頃の会話の中から汲み取り、把握の難しい利用者は色々と工夫しながら対応し、思いの把握に努めている。気づきを申し送り時や連絡ノートに記録し、情報共有を行い、次に繋がる取り組みをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	フェイスシートやご本人のお話から今までの生活をできるだけ把握し、支援に生かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の生活の様子を注意深く観察することで、小さな変化にも気づけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目（せせらぎ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人の希望、家族の意向を踏まえ、必要な支援を検討し、現状に即した介護計画を作成している。	担当職員の情報や計画作成者がアセスメントを行い、多職種の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、必要な支援を検討し、状況の変化があれば見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ミーティングを月1回行いカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナ禍により面会が難しいが、ZOOM面会に対応を切り替えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍により、地域の資源との共同は難しい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望により、かかりつけ医を決めていただき連携をとり、受診支援を行っている。	契約時に希望のかかりつけ医を定め、訪問診療や家族による受診支援をしている。医療機関受診の際は安佐医師会連絡シートを活用し、医師との連携を図っている。事業所1階に訪問看護師が常駐し、週1回の訪問看護による健康管理をしている。	

自己評価	外部評価	項 目（せせらぎ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回訪問看護。 急変時は、看護職へ報告、相談し、適切な看護、かかりつけ医の受診など支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携シートを活用している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人や家族の意向に添い、看取りも行っている。	契約時に重度化、終末期の指針の説明を行い、確認と同意を得ている。その後も変化に伴いその都度家族に思いの確認を行い、医師、看護師、職員など説明、確認を行い、方針を共有している。看取り時は、家族からの声かけを後押しする事もあり、家族と共に看取りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアル作成、フローチャートでわかりやすく落ち着いて行動できるよう工夫している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアル、研修を行い、落ち着いた行動がとれるようフローチャートの作成を行っている。	利用者と一緒に避難訓練をしている。緊急時の情報収集の方法や避難経路などの確認を行い、浸水の恐れがある時は、垂直避難か近くの法人病院に移動するかを、河川情報を見て判断し早めの避難行動が出来るよう訓練や研修をしている。災害時の際、地域住民との連携協力を努めている。	

自己評価	外部評価	項 目（ せせらぎ ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	目線を利用者に合わせ、目上の人に対する丁寧な言葉遣いをするように心がけている。	人格を尊重し、利用者の目線に合わせ丁寧な言葉かけや声かけを行い、日常の接遇に職員の気付きがあれば指導するなど、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いや希望を尊重し、行き過ぎた支援にならないように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	集団生活をしているので、食事の時間入浴の時間など決まっているが、できる限り、本人のペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った服やご本人の好みに合った身だしなみの支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭きや食器ふきなど、できることは、ご本人の意思を尊重しながら、行っている。	配食業者の食材を温め提供している。時には畑で野菜を収穫したりおやつ作り、利用者の出来る事が意欲に繋がるよう食器拭きやテーブル拭き、好物や形態を変えるなど思いを活かした食を楽しむ支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (せせらぎ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	タブレットを活用し、食事量、水分量を 確認している。水分の少ない方には、好 みの飲み物を提供する等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後一人一人できない部分を支援し、 口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握し、声掛けを行い、 ご自分の意志でトイレ誘導を行っている。	個別性を大切にしながら、排泄パターン を把握して声掛けを行い、トイレで座位 にて排泄できるよう支援をしている。ト イレ内は車いすで移動でき、手すり、折 りたたみ式のテーブルを設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取に気を付け、牛乳やヨーグルト などを提供。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	曜日により入浴される日を決めている。 体調不良や入浴拒否がある場合、日程の 変更などを行う。	入浴時間や回数など決めず、体調や気分 などに柔軟に対応している。浴槽とシャ ワーチェアの高さ、手すりの位置など 安全にスムーズに移動ができ、職員が介 助しやすいよう設置がしており、ゆった りと湯舟に浸かり会話を楽しむ支援をし ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目（せせらぎ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	ひとりひとりの生活リズムに合 わせ、日中、居室で休まれる方 もおられる。就寝時間は、決ま りがなく、本人の意思を尊重し ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	薬情報を活用し、服薬の支援を 行っている症状の変化は注視し ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	その方に合った役割を見つけ、 食器ふきやまくらカバーの交換 などできることを本人の意思で 行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	コロナ禍により、外出制限のた めでできない。事業所の周りを 散歩する程度しかできていない。	外出自粛のため、日常的な外出 は困難で月1回事業所フロアー 内で行事をしている。今後は状 況を見ながら、ドライブや買い 物、外食など家族や地域の方の 協力を仰ぎながらの外出支援を 検討している。4月に久しぶりに 近隣の公園に花見に出かけた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	施設内では、お金は持たない。		

自己評価	外部評価	項 目（せせらぎ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯を使い、自らお電話をされる方もおられる。 面会は、ZOOMを利用したり、家族からの手紙を大切にされている方もおられる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間を毎日清潔にし、整理整頓に努めている。 壁を利用し、季節の飾りをしたり、花を飾ったりしている。	新型コロナウイルス感染症対策や空調管理、安定した姿勢保持のため足台やクッションなど使用して居心地よく過ごせるよう配慮している。季節感のある飾り付けや日めくりカレンダーを掲示している。ユニットごとの往来もあり、利用者同士の円滑な交流をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル席のほかにソファやベランダにベンチを置き、マッサージチェアでくつろがれたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンスやテレビなど自分の物を持ってこられ、飾りや写真など壁に飾るなど居心地よく清潔に過ごせるよう工夫している。	自宅で使い慣れたタンスや馴染みの物品を持参している。居室の洗面台や壁には写真や誕生日に職員からのプレゼントの壁画が飾られている。清潔感が保たれ自宅と変わらないよう、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	歩きやすいよう、手すりを配置したり、トイレの表示をするなど、ご自分のできることは、見守りなどにとどめ、行き過ぎた支援にならないようにしている。		

V アウトカム項目(せせらぎ) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己 評価	外部 評価	項 目（ さえずり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日、朝礼や研修時に唱和し、リネンを意識して実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍により行事は縮小している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍で地域との交流は難しい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	災害時の対策や、コロナ感染状況など情報を共有している。 また、地域の子ども食堂などの状況なども教えてもらっている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域の認知症の方などの相談やオレンジチームや地域包括支援センターとも連携をとっている。地域のサロン活動で認知症ケアについて話をする場を与えていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目（ さえずり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修は何度も行い、理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修を何度も行い、虐待防止に努めている。ワークショップ開催して、不適切ケアと思うことへの打ち手など話し合い取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	倫理綱領で、理解を深めている。必要な方へは、成年後見制度を活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約までに事前に面談や説明を行い、家族や本人の不安や疑問を取り除けるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の意見、要望については、職員を中心に聞いて、運営推進会議で発表させてもらっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さえずり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダーを中心に職員の意見や提案を聞く機会を面談などで行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人の目標を立て達成に向けての取り組みを行えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	エキスパートコーチやトレーナーを中心にOJTシートの評価育成に取り組んでいる。 メンター制度も導入している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他の事業所の運営推進会議に参加し、情報の共有を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の希望、意向を常に第一に心がけ信頼関係を築いている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さえずり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	コロナ禍のため、電話で対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族の希望、意向に添って、必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	できるだけ目線を合わせて、丁寧な言葉で会話し、できない部分を補うよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	小さな変化や必要な時、電話で伝え、コロナ禍のため、ZOOMを遣って面会していただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍での外出は難しいが、ZOOMでの面会や、行きたい場所などを聞いて、できる範囲で行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さえずり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	コロナかで、利用者間の間隔を広げないといけませんが、できるだけ孤立しないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	電話をかけて、様子を聞くことをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の思いをくみ取り、できるだけ、その方に合った支援方法を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	フェイスシートやご本人のお話から今までの生活をできるだけ把握し、支援に生かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の生活の様子を注意深く観察することで、小さな変化にも気づけるよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さえずり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人の希望、家族の意向を踏まえ、必要な支援を検討し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ミーティングを月1回行いカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナかにより面会が難しいが、ZOOM面会に対応を切り替えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍により、地域の資源との共同は難しい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望により、かかりつけ医を決めていただき連携をとり、受診支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目（ さえずり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回訪問看護。 急変時は、看護職へ報告、相談し、適切な看護、かかりつけ医の受診など支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携シートを活用している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人や家族の意向に添い、看取りも行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアル作成、フローチャートでわかりやすく落ち着いて行動できるよう工夫している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアル、研修を行い、落ち着いた行動がとれるようフローチャートの作成を行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さえずり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	目線を利用者に合わせ、目上の人に対する丁寧な言葉遣いをするように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いや希望を尊重し、行き過ぎた支援にならないように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	集団生活をしているので、食事の時間入浴の時間など決まっているが、できる限り、本人のペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った服やご本人の好みに合った身だしなみの支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭きや食器ふきなど、できることは、ご本人の意思を尊重しながら、行っている。		

自己評価	外部評価	項 目（ さえずり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一 日を通じて確保できるよう，一人ひと りの状態や力，習慣に応じた支援をし ている。	タブレットを活用し、食事量、水分量を 確認している。水分の少ない方には、好 みの飲み物を提供する等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後一人一人できない部分を支援し、 口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン，習 慣を活かして，トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握し、声掛けを行い、 ご自分の意志でトイレ誘導を行ってい る。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲 食物の工夫や運動への働きかけ等， 個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取に気を付け、牛乳やヨーグルト などを提供。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように，職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に，個々に応じた入浴の支援をしてい る。	曜日により入浴される日を決めている。 体調不良や入浴拒否がある場合、日程の 変更などを行う。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さえずり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	ひとりひとりの生活リズムに合 わせ、日中、居室で休まれる方 もおられる。就寝時間は、決ま りがなく、本人の意思を尊重し ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	薬情報を活用し、服薬の支援を 行っている症状の変化は注視し ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	その方に合った役割を見つけ、 食器ふきやまくらカバーの交 換などできることを本人の意思 で行っていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	コロナ禍により、外出制限のた めでできない。事業所の周りを 散歩する程度しかできていな い。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	施設内では、お金は持たない。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さえずり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯を使い、自らお電話をされる方もおられる。 面会は、ZOOMを利用したり、家族からの手紙を大切にされている方もおられる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間を毎日清潔にし、整理整頓に努めている。 壁を利用し、季節の飾りをしたり、花を飾ったりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル席のほかにソファやベランダにベンチを置き、マッサージチェアでくつろがれたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンスやテレビなど自分の物を持ってこられ、飾りや写真など壁に飾るなど居心地よく清潔に過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	歩きやすいよう、手すりを配置したり、トイレの表示をするなど、ご自分のできることは、見守りなどにとどめ、行き過ぎた支援にならないようにしている。		

V アウトカム項目(さえずり) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームガーデンの家川内

作成日 令和5年5月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	コロナ禍で面会制限があり、地域の人やご家族との交流が少ない。	地域の方、ご家族参加型のイベントレクリエーションを行う。	レクリエーションや行事ごとに担当者を決め、地域の方ご家族に発信し、利用者で行えるように準備を行う。	令和5年8月
2	9	利用者様の認知機能低下に伴い、本人の希望に寄り添えているかわからない部分がある。	利用者様が快適に暮らせて、できることが減らないように、ケアを行う。	ご家族とともに好みや生活歴習慣などを知り、ひも解いて認知症ケアにつなげる。	令和5年8月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。